

# 2021年度 国際連携部門 事業報告書

---

**和歌山大学**  
**国際連携部門(IRD)**



国立大学法人  
**和歌山大学**



## 目 次

### 【1 基幹事業概要】

(1) 海外大学との交流締結状況	5
(2) 交換留学 受入状況	7
(3) 交換留学 派遣状況	7
(4) 日本語・日本文化研修留学生（日研生） 受入状況	7
(5) その他学生 受入状況	7
(6) その他学生 派遣状況	7

### 【2 日本語・日本文化教育関連事業報告】

(1) 日本語クラスについて	9
(2) 第13回作文コンクール	10
(3) 第19回学長杯 留学生によるスピーチコンテスト	12
(4) 留学生の研究発表会	13
(5) 「日本文化入門」	14
(6) 「日本語教育演習」	14
(7) 国際シンポジウム「アジアにおける日本語教育-日本文化と日本語教育-」	15
(8) オンライン日本語会話クラブ	15
(9) オンラインによる合同授業	15

### 【3 国際教育・交流事業】

(1) オンラインによる国際協働学習(COIL)型教育の実施	
◆教養科目「異文化コミュニケーション共同演習」	18
◆教養科目「国際協力オンライン演習」	19
(2) ブリッジウォーター州立大学とのオンライン交流会	20
(3) 多言語サロン	21
(4) 地域交流	22
(5) 外部との連携プログラム等	23
国際連携部門年間事業実績一覧	25
国際連携部門教職員一覧	26

## 【 1 基幹事業概要】

## (1) 交流協定締結状況

2021年度は、新たに下記の2大学と「学生交流協定」を締結しました（交流協定は締結済）。

国名	大学名	締結日
ウズベキスタン共和国	ウズベキスタン世界経済外交大学	2021年10月27日
中華人民共和国	福建師範大学	2021年11月15日

2021年度末（2022年3月31日現在）において、下記の大学と協定を締結しています。

	国名	大学名
1	大韓民国	慶北大学校
2	ベトナム社会主義共和国	ホーチミン市師範大学
3		ハノイ国家教育大学
4		ダナン工科大学
5	中華人民共和国	浙江師範大学
6		山東師範大学
7		山東大学
8		吉林大学
9		東北財経大学
10		首都師範大学
11		華東師範大学体育健康学部
12		山東財経大学
13		東北大学
14		西安交通大学
15		鄭州大学
16	福建師範大学	
17	フランス共和国	トロワ工科大学
18		コンピエーニュ工科大学
19		ベルフォール・モンベリヤール工科大学
20		パリ大学
21		オーデンシア・ビジネススクール
22	スペイン王国	サラゴッサ大学
23		サンディアゴ・デ・コンポステーラ大学

24		西フロリダ大学
25	アメリカ合衆国	ウイスクンシン大学 ミルウォーキー校
26		ブリッジウォーター州立大学
27	グアテマラ共和国	サンカルロス大学
28	オーストラリア連邦	カーティン大学 カーティン・ビジネス・スクール カーティン言語・異文化教育スクール
29		デイキン大学
30	タイ王国	カセサート大学
31	インドネシア共和国	ガジャマダ大学
32		ビナ・ヌサンタラ（ビヌス）大学
33	ラオス人民民主共和国	ラオス国立大学
34	フィリピン共和国	フィリピン国立大学
35	英国	セントラル・ランカシャー大学
36	カザフスタン共和国	カザフ国際関係外国語大学
37	ブラジル連邦共和国	グランデ・ドラードス大学
38	クロアチア共和国	オシエク大学
39	ウズベキスタン共和国	ブハラ国立大学
40		ウズベキスタン国立世界言語大学
41		タシケント国立経済大学
42		タシケント建築土木大学
43		ウズベキスタン世界経済外交大学
44		シルクロード国際観光大学
45		シンガポール経営開発研究所タシケント校
46	ロシア連邦	ペルミ国立大学

(2) 交換留学 受入状況

大学名	受入人数
西安交通大学	1
山東師範大学	3
山東大学	2
ビナ・ヌサントラ大学	1
オーデンシア・ビジネススクール	1

(3) 交換留学 派遣状況

国	大学名	派遣人数
中国	山東大学	1 (オンラインでの交換留学)

(4) 日本語・日本文化研修留学生 受入状況

国	大学名	受け入れ人数
ベトナム	ホーチミン市師範大学	1
ウズベキスタン	ウズベキスタン国立世界言語大学	1
中国	浙江師範大学	1
ウクライナ	キエフ国立大学	1
スリランカ	ケラニヤ大学	1
ブラジル	リオデジャネイロ連邦大学	1
トルコ	エルジェス大学	1
ミャンマー	マンダレー外国語大学	1

(5) その他学生 受入状況

2021年度は受入実績なし。

(6) その他学生 派遣状況

2021年度は、オンライン派遣という形態で、以下の実績がある。

派遣先	プロジェクト名称等	期間	派遣人数
アメリカ	ブリッジウォーター州立大学 US Education & Culture Virtual Program	2021. 5. 24～6. 3	3名
韓国	慶北大学校サマースクール	2021. 8. 9～8. 20	1名
韓国	慶北大学校ウィンタースクール	2022. 1. 17～1. 28	1名

## 【 2 日本語・日本文化教育関連報告】



## 2021 年度日本語・日本文化教育関連事業報告

Japanese Language and Japanese Culture Education (2021)

国際連携部門 教授 長友 文子  
Ayako NAGATOMO  
特任助教 松下 恵子  
Keiko MATUSHITA

2021 年度も、コロナは収束することがなく、日本に来られなかった留学生は、ほんとに悔しかったことでしょう。授業についても、日本にいる留学生は対面で、本国の留学生はオンラインで、というハイブリッド授業が多くなりました。しかし反面、授業のオンライン化が進んだことで、新たな可能性も生まれました。これまでは難しかった、複数の協定大学を結んだ合同授業が、オンラインにより可能になり、授業以外にも、「オンライン日本語会話クラブ」を立ち上げることができました。

以下では、2021 年度に実施した日本語教育関連のプログラムとイベントのいくつかを紹介しします。

### <プログラム>

#### 1. 日本語クラスについて

留学生の日本語教育科目として、以下の科目を開講しました。

### <日本語科目>

「日本語中級 A」「日本語中級 B」「日本語中級 C」「日本語中級 D」「日本語上級 A」「日本語上級 B」「日本語上級 C」「日本語上級 D」「日本語中級 K」「日本語中級 L」「日本語中級 M」「日本語中級 N」「日本語上級 K」「日本語上級 L」「日本語上級 M」「日本語上級 N」

上記の中級と上級のそれぞれの科目では、留学生は、日本語の 4 技能を学びます。授業が始まる前にオンラインでのプレースメントテストを行い、それぞれのレベルに振り分け、学生のニーズとレベルに合った授業を行いました。

「日本語」と「日本事情」科目は、もともと正規学部留学生の必修科目でした。しかし、留学生の増加と多様化が進み、正規学部留学生以外に、海外協定大学からの交換留学生、日本語日本文化研修留学生、また大学院留学生や研究生など、多様な留学生が、日本語科目を履修することになりました。

単に履修留学生の人数が増えた、というだけの問題ではありません。英語や他の語学とは異なり、日本語を履修する留学生は、留学目的や日本語ニーズも、また。入学時のレベルの違いや漢字圏と非漢字圏の違いを含むレディネスも、大変多様です

そのため、クラスをいくつも開く必要があるのですが、それでも、専門科目と重なって、自分に合ったクラスを履修できない学生もいます。日本語教員数が限られた現状では、多様な留学生のそれぞれの実情にあった、きめ細かな日本語クラスを開くのは大変難しいのですが、ポストコ

コロナを見据えた大きな課題を抱えながら、現状の中で最大限の努力をしています。

### <日本語・日本文化関連科目>

①「日本語日本文化研究A・K」、②「日本事情」、③「日本文化と入門ビジネスジャパニーズA・K」、④「日本文化入門A・K」、⑤「外国語としての日本語を学ぶ」、⑥「日本語教育学入門」、⑦「留学生のためのアカデミック・プレゼンテーション」、⑧「留学生のためのアカデミック・ライティング」、⑨「日本語教育演習A・B」

これらの科目では、留学生は、日本語と共に日本の文化を学びます。特に①「日本語日本文化研究A・K」では、研究テーマを決めて研究レポート作成をし、発表会を行います。今回の発表会は、ハイブリッドで行いましたが、会場には高校生をはじめ地域の方々が来てくださり、オンラインでは、ウズベキスタン、スリランカの学生や先生方が参加してくださいました。

②「日本事情」では、例年、「和歌祭」の歴史を学んだ上で、地域の協力で実際に祭りに参加するのですが、今年度もコロナで和歌祭りがキャンセルになったため参加できず、残念ながらオンライン授業しかできませんでした。

さらに、留学生のキャリア教育のための③「日本文化と入門ビジネスジャパニーズA・K」、また、日本人学生と共修で、将来日本語の教師になりたいという学生のための⑤「外国語としての日本語を学ぶ」という授業も行いました。

また、今年度から新たに日本語教育の基礎を学ぶ⑥「日本語教育学入門」、大学生として必要なプレゼンテーション能力や論文作成能力を学ぶ⑦「留学生のためのアカデミック・プレゼンテーション」、⑧「留学生のためのアカデミック・ライティング」、模擬授業等の日本語教育実習を行う⑨「日本語教育演習A・B」を開講しました（後記参照）。

## 2. 第13回作文コンクール

研究グローバル化推進機構国際連携部門では、2021年5月3日(月)から6月25日(金)まで「留学生から見た和歌山・日本・母国」というテーマで作文募集を行いました。作文コンクールの趣旨は、「留学生が見た、感じた、体験した和歌山・和歌山大学」、「和歌山での留学生活から考えた日本語の社会」などを、母語と日本語で書き、世界に紹介しようというものです。第13回目を迎えた今回は、中国、インドネシア、マレーシア、台湾、カザフスタン、ベトナム、イランの7つの国・地域からの留学生14名の応募があり、次の留学生が受賞しました。

#### ◎最優秀賞：

交換留学生（中国）畢晨さん

「松尾芭蕉との出会い」

#### ◎優秀賞：

日本語・日本文化研修留学生（インドネシア）ジョヴァンカ アリフ サプトラさん

「「ああ〜」と言うほどに」

経済学部2年（インドネシア）ファジャル スチヤディさん

「人間性を守る」

#### ◎審査員賞：

経済学部2年（マレーシア）ヌルル イザ ビンティ カイルル アンワルさん

「可愛い電車」

観光学部1年（マレーシア）サラ フダ ビンティ ノール アザムさん

「四季の美しさ」

◎特別賞：

経済学部3年（台湾）林 丞緯さん

「私の留学生活」

経済学部2年（マレーシア）シティ アミラ アマニ ビンティ アリアスさん

「日本に暮らすムスリムとしてのチャレンジ」

経済学部1年（マレーシア）シティ ノラジュマル ビンティ アズミさん

「習慣とマナー」

経済学部2年（マレーシア）アダム バジル ビン アハマド カマルさん

「田舎なの？」

◎努力賞：

日本語・日本文化研修留学生（カザフスタン）タジバエワ ジャニヤさん

「理想と現実」

日本語・日本文化研修留学生（インドネシア）エヴリリヤさん

「素敵なおとこ、和歌山への思い」

日本語・日本文化研修留学生（ベトナム）マー ティエット フーンさん

「記憶に残る和歌山」

日本語・日本文化研修留学生（イラン）サデギ ファテメさん

「私が見た東京と大阪以外の日本」

経済学部2年（中国）王 新慧さん

「新型コロナウイルス下の和歌山」

優秀賞に輝いた中国の畢晨さんの作文には、松尾芭蕉の作品との出会いを重ねながら、畢さんの芭蕉像が深まってゆき、孤独な旅人というイメージに到達したことが、的確な日本語で書かれていました。また、優秀賞のジョヴァンカさんとファジャルさん、そして、審査員賞、特別賞、努力賞のみなさんの作文も、それぞれ、伝えたいことが上手にまとめられて表現された素晴らしい作文でした。

応募者の作品は、日本学教育研究センター（旧国際連携部門）HP に掲載されています。  
(<https://www.wakayama-u.ac.jp/cjs/data/sakubun/introduce13.html>)



### 3. 第19回 学長杯 留学生によるスピーチコンテスト

第19回「学長杯、留学生によるスピーチコンテスト」は、今回も、和歌山県、和歌山市、和歌山県国際交流協会、WINコンコード、和歌山文化協会、ソロプチミスト和歌山紀ノ川の後援をいただいて開催されました。

コロナのため、スピーチはオンライン発表になりましたが、大学の大教室にライブ・ビューイング会場を設け、そこに審査員が着席し、学長や来賓の方々、さらにスピーチを聞くことを希望する方も一緒に、大きなスクリーンでスピーチを視聴しました。また、オンラインでも、14か国141名の方が、視聴参加されました。

今回のスピーチコンテストには、本学の留学生に加えて、学外から、和歌山YMCA福祉専門学校、和歌山工業高等専門学校、高野山大学の留学生、さらに本学の協定校であるインドネシアビヌス大学・ガジャマダ大学、中国山東師範大学・浙江師範大学、ウズベキスタン世界言語大学からの学生の皆さんが参加してくれました。合わせて今回出場されたのは、中国、イラン、ベトナム、インドネシア、カンボジア、マレーシア、ウズベキスタンの7か国から14名の方々でした。

審査の結果、学長杯に輝いたのは、和歌山大学システム工学部でマレーシア出身のファティマ・アル・ザーラ・ビンティ・アズマンさん、第二位は、高野山大学留学生で台湾出身の郭 欣儀さん、第三位は和歌山大学日本語・日本文化研修留学生でスリランカ出身のナナヤッカーラ・ワサム・エゴダゲ・タヌシ・ナリンドラー・アベセカラさんです。また、特別賞には、ウズベキスタン国立世界言語大学のナザロヴァ・サルヴィノズ・グロマリ・キジさんと和歌山大学日本語・日本文化研修留学生でトルコ出身のババダー・セリムさん、WIXAS賞には、和歌山大学日本語・日本文化研修留学生でミャンマー出身のメイ・テュ・ミョー・アウンさんが選ばれました。

以上の入賞者はもちろん、参加した留学生の方々、いずれも、自分の思いを日本語で書き、それを覚え、そして当日、心を込めてスピーチしてくれました。今回のオンラインでのスピーチコンテストで頑張った経験は、よい思い出になるだけでなく、将来の自信につながるでしょう。

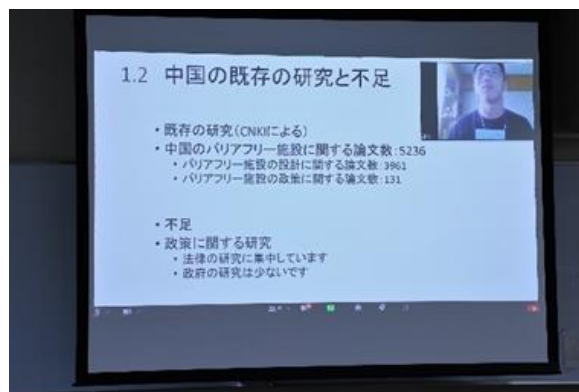


#### 4. 留学生の研究発表会（担当：長友）

『日本語日本文化研究』の授業では、毎年、日本語日本文化研修留学生、交換留学生が、言葉と文化について研究を行っています。その研究成果の発表会を、今年度は2021年8月6日にハイブリッドで開催しました。当日は、高校生も含む学外の方々の参加もあり、また、海外からも、ウズベキスタン、スリランカの先生や学生のオンラインでの参加がありました。

#### 発表者とタイトル

	氏名		国籍	タイトル
1	SADEGHI FATEME	サデギ ファテメ	イラン	イランと日本の文化比較
2	MA TIET PHUONG	マ ティエット フォン	ベトナム	漢日語と漢越語の同形同義語を活用した漢字学習法
3	JOVANKA ALIF SAPUTRA	ジョバンカ アリフ サブトラ	インドネシア	戦艦大和の意義
4	TAZHIBAYEVA ZHANIYA	タジバエフ ジャニヤ	カザフスタン	日本語とカザフ語の文法の共通点と相違点
5	EVRYLLIYA	エヴリリヤ	インドネシア	日本における遠慮文化
6	畢 晨	ヒツ シン	中国	日本と中国におけるバリアフリー施設の発展過程の比較－政府の役割を中心に－



## 5. 「日本文化入門A・K」(担当: 松下)

「日本文化入門A・K」は、交換留学生・日本語日本文化研修留学生を対象とし、日本の伝統文化を理解する科目で前期と後期に開講しています。コロナ禍により日本に入国できず母国からリモートで参加する留学生が多いため、昨年引き続きオンライン授業中心となりました。インターネット学習リソースを活用した美術鑑賞や古典文学の朗読、日本の伝統文化を自国の文化と比較したり、日本の宗教についてグループに分かれて調査するといった活動を行いました。また、一部対面授業も可能となり、茶道部のメンバーに手伝ってもらい茶道体験を実施しました。日本のお盆に関する授業では、和歌山の盆踊り「ぶんだら節」を全員で踊りました。



## 6. 「日本語教育演習A・B」(担当: 松下)

「日本語教育演習A・B」は、日本語教育について学びながら日本語学習者の気持ちを理解し、模擬授業を通じて「日本語を教える」とはどういうことかを学ぶという教養科目です。模擬授業1回目は、導入、口頭練習などの基本練習、2回目は、会話練習やロールプレイなどの応用練習を行いました。この授業の特徴は、受講生が教師役と学生役の両方を体験すること、また、協力してくれる留学生も教師役と学生役の両方をしてもらうことです。受講生は日本語教育経験がありませんでしたが、これまで学んだことを活かしつつ、工夫を凝らした授業を実施していましたし、教師役の留学生からも様々なことを学んだようです。



## <イベント>

### 7. 「国際シンポジウム 第2回「アジアにおける日本語教育—日本文化と日本語教育—」

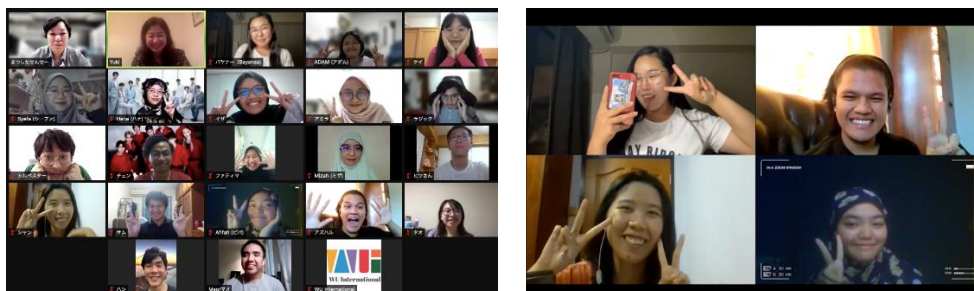
近年、日本語教員を目指す留学生や、日本の現代文化に関心をもって日本語を学び短期留学する学生も増えてきています。そのような日本文化への関心の高まりを受け止め、日本・海外の各大学では、語学教育としての日本語教育だけでなく、日本の現代文化や伝統文化の学習や、日本文化の体験学習にも力を入れるようになってきています。このような日本語教育をとりまく国内外の現状を踏まえて、「日本文化と日本語教育」をテーマにしたシンポジウムを企画しました。

ご協力頂いた大学は、スリランカのケラニヤ大学、ウズベキスタンのウズベキスタン国立世界言語大学、インドネシアのビヌス大学、ブルネイのブルネイ・ダルサラーム大学です。

基調講演は、日本大学の野田尚史先生に「日本語・日本文化の多様性と日本語教育」というテーマでお話いただきました。その後、4大学の事例報告があり、それを基に、「アジアにおける日本語教育—日本文化と日本語教育—」についてのパネルディスカッションを行いました。本シンポジウムには、16か国から180名の参加があり、盛況のうちに終えることができました。

### 8. 「オンライン日本語会話クラブ」(担当：松下)

2021年9月3日(金)と12月23日(木)にブルネイ・ダルサラーム大学(ブルネイ)とバリアブンタウ大学(ベトナム)、和歌山大学の留学生とでオンライン日本語会話クラブを行いました。和歌山大学の留学生がファシリテーターとなり、グループに分かれて「自己紹介」「日本語学習」「趣味・好きなこと」という3つのテーマについて日本語で会話活動を行いました。それぞれ各90分間の開催で両日合わせて80名が参加しました。



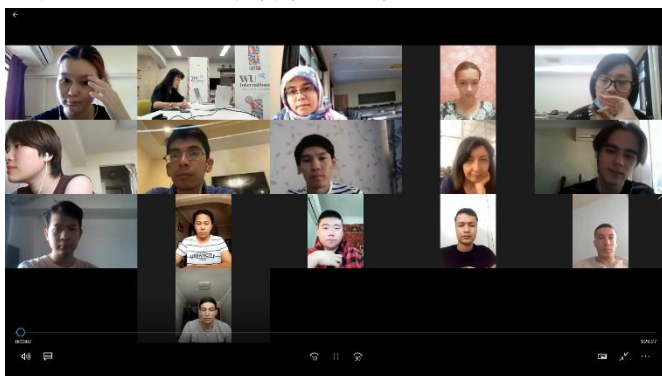
### 9. オンラインによる合同授業(担当：長友)

「日本事情」、「日本語日本文化研究」の科目では、本学の学生と、ウズベキスタンの、ウズベキスタン世界言語大学(2回)、タシケント経済大学(1回)、スリランカノケラニヤ大学(2回)、ベトナムのハノイ貿易大学(1回)の学生とで、オンラインによる合同授業を行いました。自己紹介やお国紹介、大学紹介をしたり、テーマを決めてグループディスカッションを行ったり、大変有意義で楽しい交流ができました。

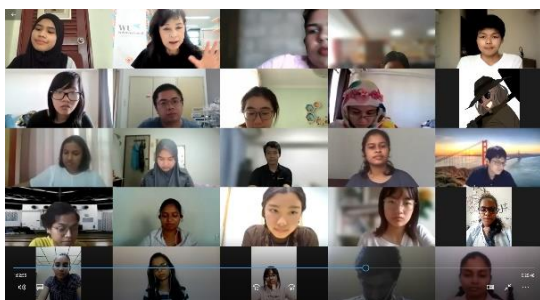
<ハノイ貿易大学と>



<ウズベキスタン世界言語大学と>



<ケラニア大学と>



<タシケント経済大学と>





## 【 3 国際教育・交流事業】

※2021年度の海外短期研修プログラムは、新型コロナウイルスによる渡航制限により、全てのプログラムが派遣中止となりました。

## (1)オンラインによる国際協働学習(COIL)型教育の実施

国際連携部門 藤山 一郎

FUJIYAMA, Ichiro

新型コロナウイルス感染症の拡大により、短期の海外短期研修プログラムが中止を余儀なくされる中で、オンラインによる国際教育プログラムとして、昨年度から拡大して「異文化コミュニケーション共同演習」を通年（前期・後期）で開講するとともに、フィールドワークやPBLの要素を含めた「国際協力オンライン演習」を新規開講した（後期）。

### ①教養科目「異文化コミュニケーション共同演習 A・B」

#### 【授業概要】

本授業は、本学の協定校であるビナ・ヌサンタラ大学（以下、ビヌス大学）の人文学部日本語学科と合同で実施するオンライン国際協働学習(COIL)形式の授業である(授業内容はA・B共通)。

共通テーマを、「SDGs からみた Before-After Pandemic の社会変化」とし、COVID-19 の世界的感染拡大のなかで日本やインドネシアで発生している社会変化に焦点をあてることとした。双方の学生でグループを形成し、グループごとにSDGsの17分野から1分野を選択し、調査テーマを設定した。

授業はおおきく3期に区分し、第1期を調査課題・調査計画の決定、第2期を調査実施と分析、第3期を発表資料の作成として、授業では進捗報告、質疑応答、コメントをおこなった。なお、各グループの調査結果の一部は、ビヌス大学が主催する国際研究集会で発表され、ペーパーが発行されている。

本授業は、2020年度後期から開講しており、2022年度も通年で開講する。ビヌス大学側の担当者との協議しながら引き続き、授業内容の改善をはかっていきたい。

	履修者数	合同グループ数
前期(A)	和歌山大学：14名 ビヌス大学：20名	7チーム
後期(B)	和歌山大学：5名 ビヌス大学：9名	4チーム



写真1：授業（前期）時の模様



写真2：最終発表時の資料（前期）

## ②教養科目「国際協力オンライン演習」

### 【授業概要】

本授業は、本学の協定校であるガジャマダ大学（インドネシア）との合同による、COIL と PBL を融合したオンライン授業である。インドネシアでは、住民参加型地域振興策として「観光村」政策が実施されている。今回、ジョグジャカルタ特別州に位置するひとつの観光村より提示された3つの課題（観光促進や生業の発展等）にもとづいて、両大学の履修者がグループに分かれた。本学履修者は7名、先方は12名である。

各グループは、観光村政策や当該観光村の基礎情報の共有、調査計画の立案、日本の事例調査、オンライン・フィールドワークの実施と成果分析などを通じて、調査提案資料を作成した。最後は、観光村住民を対象にオンラインによる合同成果発表会を開催した。フィールドワークおよび合同成果発表会は、ガジャマダ大学の教員・学生が当該観光村を直接訪問し、本学とライブ中継形式で実施された。

合同成果発表会では、約20名の観光村関係者・住民が、3チームによる英語・インドネシア語を交えた成果発表を聞いた後、それぞれ質問や今後の継続的な協力のあり方についてコメントがある等活発な交流がおこなわれた。本件を通じて、オンライン教育によるフィールドワークや国際協力の可能性が示された。



写真1：授業時の模様



写真2：合同成果発表会の模様



写真3：発表資料の一部



写真4：発表会終了時の集合写真

## (2)ブリッジウォーター州立大学とのオンライン交流会

本学の協定校であるブリッジウォーター州立大学（アメリカ）の学生と本学生の交流会をオンラインにて実施しました。今回で3回目となる本交流会では、本学の高野七口活性化プロジェクト「ばあむ。」による高野山紹介が行われ、その後グループに分かれ自己紹介やトピックに合わせて様々な交流を図りました。コロナ禍で海外へ行けない中、オンラインを通じて異文化交流ができる貴重な機会となりました。



### (3)多言語サロン

多言語サロンは、留学生が講師となり出身国・地域に関する情報や母語を教える講座です。講座受講を通して日本人学生や教職員の異文化理解促進や相互交流の機会を提供しています。

(開講時期：6月～7月・11月～12月 各クラス週1回 全7回講座)

時期	開講クラス	講師	国籍	受講延べ人数
前期	英語	スター・レベッカさん	アメリカ	45
	中国語	チョウ・テンエイさん	中国	24
	韓国語	キム・ウンギョンさん	韓国	24
後期	英語	ラファエル・チルタアトマジャさん	インドネシア	33
	中国語	チョウ・テンエイさん	中国	39
	韓国語	キム・ウンギョンさん	韓国	61

※後期については、中国語と韓国語を週2回実施しました。

オンラインで開催した英語クラス（前期）



対面で質問を受ける中国語クラス



スライドを使って説明する韓国語クラス



ペアワークで練習を行う英語クラス



## (4)地域交流

和歌山大学では、留学生と地域の方々の国際交流や国際理解促進及び向上を目的に派遣活動や大学の訪問を受入れています。主に県内の教育機関や行政機関、国際交流団体からの依頼に基づき、留学生の派遣や大学での交流活動受入を実施しています。

実施日	行事名	依頼機関	派遣人数
10月16日	日中友好記念式典	和歌山県日中友好協会	3名（中国）
11月13日 11月21日 11月27日	日本遺産・葛城修験と 地域の自然モニターツアー	南海電鉄グループ 和歌山事務所	留学生8名（延べ人数） （中国・ベトナム・マレーシア）
12月4日	紀州っこアドベンチャー フェスタ	公益財団法人 和歌山県国際交流協会	3名 （インドネシア・ベトナム・中国）
12月16日	日本企業勉強会	JETRO 和歌山	12名 （中国・マレーシア・ベトナム、フランス）
12月23日	災害時多言語支援センター 設置訓練	公益財団法人 和歌山県国際交流協会	1名（台湾）

紀三井寺での日中友好記念式典



紀州っこアドベンチャーフェスタ



災害時多言語支援センター設置訓練



JETRO 主催 日本企業の勉強会



## (5) 外部との連携によるプログラム等

### ① 「国際社会と日本」

日時：2021年11月24日（水）14：50～16：20

講師：川原英一 先生（和歌山大学客員教授、外務省参与、  
元駐グアテマラ特命全権大使）

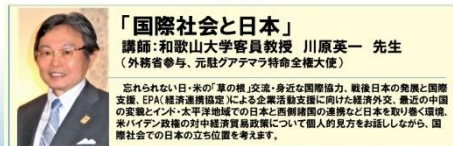
内容：和歌山県のわかやま国際アカデミー事業と連携し、  
オンラインでの特別講演を実施。本学学生を対象に海外での経験や現在の日本を取り巻く国際的な環境について講演。学生達に日本での常識に捕らわれず、海外の文化・習慣を学ぶ重要性を伝えた。

和歌山大学客員教授（外務省参与、元駐グアテマラ特命全権大使）

### 川原英一先生 オンライン特別講演

この度、和歌山県では、創立30周年を迎えた公益財団法人和歌山県国際交流協会及び和歌山大学との連携のもと、和歌山大学OB、和歌山大学客員教授（外務省参与、元駐グアテマラ特命全権大使）の川原英一先生をお招きして、オンライン特別講演を開催することとしました。多くの方のご観覧をお待ちしています。

2021年11月24日（水）14:50～16:20  
オンライン開催（Zoom）



#### 「国際社会と日本」

講師：和歌山大学客員教授 川原英一 先生  
（外務省参与、元駐グアテマラ特命全権大使）

忘れられない日・米の橋、交流・身近な関係性。戦後日本の発展と国際支離、EPA経済連携協定による企業活動環境に向けた経済外交。最近の中国の政策とインド・太平洋地域での日本と西側諸国の連携など日本を取り巻く環境、米ハイテク政権の対中経済貿易政策について個人的見方をお話ししながら、国際社会での日本の立ち位置を考えます。

**講師プロフィール**  
1950年大分県生まれ。和歌山大学経済学部卒。大学在学中に外務省研修生、英・アチーン大学研修留学、南ア・マレーシア、香港、タイ研修など勤務。本省国連局、北米局、経済協力局、中東事務局在職中に、国連FAC/IO/日・メキシコEPA交渉に参事、(財)フォーリン・プレスセンター勤務。2010年駐グアテマラ特命全権大使、2013年駐グアテマラ特命全権大使、2016年12月外務省参事。2019年2月から和歌山大学客員教授。同年外務省参事、タイ王国駐グアテマラ共和国より教授。

**参加申し込み方法**  
参加を希望する方は、以下のオンラインフォームもしくは右下のQRコードからお申込みください。お申込後、講演の前に申込フォームに記載いただいたメールアドレス宛に主催者（和歌山県）より視聴用URLを送付いたします。

オンラインフォーム：<https://forms.office.com/r/BQeust4E6k>

公益財団法人和歌山県国際交流協会（理事長 櫻庭直樹）  
2020年11月に創立30周年を迎えた、和歌山県内の国際交流活動等の促進及び和歌山在住外国人の支援を遂げ、進んでも開かれた地域社会づくりを目指す。

主催：和歌山県、公益財団法人和歌山県国際交流協会 協力：国立大学法人和歌山大学  
問い合わせ先：和歌山県企画部企画政策課国際課 TEL. 073-441-2055

### ② 「国際協力をめぐる最近の動き

#### ～JICAの目指すもの～

日時：2022年3月14日（月）13：30～15：00

場所：西4号館1階T-101 及びオンライン

講師：独立行政法人 国際協力機構 北岡 伸一 理事長

内容：わかやま JICA ボランティア応援団との連携により

本学学生を対象に学内にて特別講演を実施。

これまでの JICA の活動内容を交えて今 JICA が目指しているものを紹介。講演後は、学生達の質問を受けると共に若い世代の今後の活躍に期待を込めた。



### 国際協力をめぐる最近の動き

#### ～JICAの目指すもの～

この度、来年度に創立10周年を迎えるわかやまJICAボランティア応援団及び公益財団法人和歌山県国際交流協会は、和歌山大学と協力し、独立行政法人国際協力機構理事長をお招きして、特別講演を開催いたします。  
「日本の国益とは、国際紛争が平和的に解決され、自由貿易が行われる体制を維持することである」という考えに基づき、日本と近隣諸国との関係やJICAの取組等についてお話し頂きます。多くの方のご参加をお待ちしています！

2022年  
3月14日 月  
13:30～15:00

会場 和歌山大学 西4号館1階 T-101  
※Web視聴（Zoom）あり

定員 会場：70名  
Web視聴：100名

講師 独立行政法人国際協力機構（JICA）理事長  
北岡 伸一

QRコードまたは和歌山大学国際連携部門（IRD）HPよりお申込みください。

1948年、奈良県生まれ。東京大学名誉教授。2015年より国際協力機構（JICA）理事長。東京大学名誉教授、立教大学名誉教授。東京大学法学部卒業。同大学院法学政治学研究所博士課程修了（法学博士）。専門は日本政治外交史。立教大学教授、東京大学教授、在NY国連代表部大使、国際大学客員などを歴任。2011年、新経歴。著書に『清沢元一 日米関係への洞察』（サンデー・エッセイ選）、『日米関係のリアリズム』（読売新聞選集）、『自民党一政権の38年』（古野作進選集）、『後援者—外交のフィクション』、『世界地図を踏みながら—協力と均衡の地政学』、『明治維新の幕後』など多数。

主催：わかやまJICAボランティア応援団 共催：公益財団法人和歌山県国際交流協会  
協力：国立大学法人和歌山大学 協賛：和歌山県、一般社団法人協力隊を育てる会  
問い合わせ先：わかやまJICAボランティア応援団 担当：出口、木村  
TEL. 073-435-5240 E-mail: [waka@ird.or.jp](mailto:waka@ird.or.jp)

### ③「独立行政法人国際協力機構との連携覚書締結式」

日時：2022年3月14日（月）15：20～15：40

独立行政法人国際協力機構（JICA）関西センターと本学は連携覚書を締結。JICA 北岡理事長立ち合いのもと、JICA 関西センター佐藤恭仁彦所長と本学の伊東千尋学長が覚書に署名を行った。この覚書締結により教職員及び学生への開発途上地域の国際協力事業の機会提供や JICA 関連事業を通して本学の国際化を推進する。



（右から：JICA 北岡理事長、JICA 関西佐藤所長、伊東学長、恵下理事）



## 【2021年度 国際連携部門年間事業実績一覧】

No.	実施日・期間	イ ベ ン ト
1	4月5日	4月期新入留学生オリエンテーション（オンライン）
2	4月15日	和歌祭御船歌・唐人披露への留学生参加
3	4月26日	新入留学生&新2年生対象オンライン交流相談会
4	5月24日～6月3日	ブリッジウォーター州立大学 Education Virtual Program への参加
5	6月11日	ウズベキスタン世界言語大学との合同授業1（日本語日本文化研究A）
6	6月18日	ウズベキスタントアシケント経済大学との合同授業（日本語日本文化研究A）
7	7月3日	ウズベキスタン世界言語大学との合同授業2（日本語日本文化研究A）
8	7月8日	日本文化入門茶道体験
9	7月12日	留学生による付属学校訪問・交流
10	7月29日	日本文化入門盆踊り体験・最終プレゼンテーション
11	8月3日	スリランカ・ケラニア大学との合同授業
12	8月4日	「異文化コミュニケーション共同演習A」終了（ピナ・ヌサントラ大学）
13	8月5日	留学生による作文コンクール表彰式
14	8月6日	留学生による研究発表会
15	8月26日	本学学生とウズベキスタン学生とのオンライン交流会
16	9月3日	オンライン日本語会話クラブ（ブルネイ大学）
17	9月14日	日本語・日本文化研修留学生修了式
18	10月	10月期新入留学生オリエンテーション（オンライン）
19	10月～2月	ピナ・ヌサントラ大学に対する日本語会話ボランティアへの学生参加
20	11月15・16日	学生交流協定による交換留学ガイダンス（オンライン）
21	11月24日	川原英一先生のオンライン特別講演
22	12月11日	留学生による日本語スピーチコンテスト(オンライン)
23	12月16日	「留学生対象日本企業勉強会」への留学生参加
24	12月23日	オンライン日本語会話クラブ（ブルネイ大学・バリアブントウ大学）
25	2月2日	「異文化コミュニケーション共同演習B」終了（ピナ・ヌサントラ大学）
26	2月5日	「国際協力オンライン演習」終了（ガジャマダ大学）
27	3月2日	ブリッジウォーター州立大学とのオンライン交流会
28	3月5日	WU International 主催第2回国際シンポジウム「アジアにおける日本語教育—日本文化と日本語教育—」開催（オンライン）
29	3月14日	JICA 北岡理事長特別講演会
30	3月14日	本学と JICA 関西との連携覚書締結式

【国際連携部門教職員一覧】（2022年3月31日時点）

部門長 長友 文子(国際連携部門 教授)  
副部門長 藤山 一郎(国際連携部門 准教授) ※編集担当  
松下 恵子(国際連携部門 特任助教)

【国際交流課】

課長 中元 一恵  
係長 辻野 利明  
篁 紘子  
ジェイコブソン久美子  
程 奈緒子  
佐藤 理恵子

